

‘キャッチ’
CATCH

VOL. 77

2015. 3



西東京市図書館

音楽がきこえてくる ～目で楽しむ音楽特集♪～

『くちびるに歌を』

中田永一 著 小学館

このお話は、長崎の五島列島のなかのとある島の合唱部が NHK 全国学校音楽コンクールを目指す。簡単に言えばこれで終わります。しかし、コンクールを目指すことと中学三年生の甘くも苦くも感じられる希望や不安が混ざり合っているお話です。

語り手の一人はひとりぼっちを極めている桑原。彼には家族の事情があり、それで入部を諦めていましたが、家族の理解で参加できることに。しかし入部の理由である気になる女子には、恋人がいるらしいことがわかり…もう一人の語り手、仲村は男嫌いで男子部員と一緒に練習するのも嫌で女子だけでコンクールにしよう！と意気込んでいましたが、男子部員に弱みを握られ、渋々男女出場を目指すことに。

なかなかまとまらない部員達に、顧問の柏木先生は「十五年後の自分に手紙を書きなさい」と言います。それは課題曲である「手紙～拝啓十五の君へ～」をより深く理解させること、そして今この時・中学三年生の自分の気持ちを誰にも見せなくていいから吐き出せ、という狙いがありました。

透き通った女声と濁ったような男声、不協和音しか出てこなかったその組み合わせは、やがて美しいハーモニーになり、部員達は歌を通してひとつになります。そのハーモニーをまた奏でようと部員達が協力する姿は青春そのもの。ですが、そのハーモニーは魔法のようで、歌が終わればハーモニーは一つ一つバラバラの声になって

しまいます。青春の一瞬の輝き・悩み・思い出が文章から湧き上がってくるようで、語り手と同じような世代の読者はとても気持ちがわかるのではないのでしょうか。語り手たちが書いた、十五年後の自分へ宛てた手紙の一言一言が読者の年代によってどう受け取られるかが違うと思います。青春の一瞬の輝きが、歌の魔法にかけられてさらにきらめき、人の心を繋ぎ成長させる。魔法は永遠ではないけれど、魔法で生まれた感情は人の何かになる。音楽は楽しくも辛くもさせる魔法のようです。そんな魔法に、これからも出会えますように。

★この作者は…

『GOTH』や『ZOO』『きみにしか聞こえない』で有名な乙ーさんの別名義なのです。切なく暗めな作品が多いなか、こんなキラキラした作品もかいています。映画化の多い作家さんですが、この『くちびるに歌を』も映画化されます。

★「手紙～拝啓十五の君へ～」

アンジェラ・アキさんが、実際 15 歳のときに書いた手紙が 30 歳の誕生日に届いたことをきっかけに作られました。合唱コンクールでこの歌を歌う中学生も放送されました。

『カゲロウデイズ 1～5』

じん(自然の敵 P) 著 エンターブレイン

今、巷で流行っているボカロ。今回はボカロをもとに書かれ、アニメ化やマンガ化でもうお祭り騒ぎな「カゲロウデイズ」を紹介します。

そもそも「カゲロウデイズ」は音楽家のじん(自然の敵 P)により「カゲロウプロジェクト」(通称カゲプロ)というプロジェクトでできたもので、じんが発表している楽曲に描かれている物語をじん自身が執筆したものです。

物語は引きこもりニートのシンタローが、パソコンにすみついて
いるおてんば少女エネのせいで壊してしまった命とも呼べるキーボ
ードとマウスを買いに行くことから始まります。出かけた先で巻き
こまれた事件をきっかけに「目」に関する能力を持った「メカクシ
団」のメンバーと出会います。たとえば。メカクシ団団長のキドは
「目を隠す」ことで自分と身の周りの物の気配を消したり、シンタ
ローの妹のモモは「目を奪う」ことで相手の注目を自分に集めるな
どなど…。物語が進むにつれ、彼らの「目」に隠された過去や秘密、
謎の現象が明らかになっていきます。

話の途中に入っている歌の歌詞は、この後の何かを暗示している
かのよう。先が読めない展開にハラハラドキドキします。

「カゲロウデイズ」の楽曲と連動しているので、読んでから聞くと
「カゲロウデイズ」の世界がさらに深まること間違いなし。歌の
背景、キャラクター、歌詞まで楽しめる「カゲロウデイズ」はボカ
ロ好きも、そうでない人も楽しめる作品です。

★そういえば、ボカロって？！

ボーカロイドの略称でもともとヤマハ株式会社が開発した歌合成
ソフトのこと。メロディと歌詞を入力すると、人間の声を基にした
歌声を合成してくれる。初音ミクとかが有名ですね！

私は「千本桜」が好きです。

参考：『現代用語の基礎知識 2015』

自由国民社編集 自由国民社 2015

『楽隊のうさぎ』

中沢けい 著 新潮社

どこかに入部しなくてはいけないから、仕方なく、何気なく選ん
だ部活。初めは興味なんて全然持ってなかったけれども、気が付け
ば夢中になってる。そんな経験はありますか？

小学校時代、友達に馴染めず、中学に入っても帰宅部を希望して

いた主人公・克久。引っ込み思案な性格もあり、学校にいる時間は最小限にしたいと考えていた。けれども、なぜか克久は、男子が少ないから、と誘われた吹奏楽部に入部する。吹奏楽部なんて、学校で一番早く登校して朝練をし、放課後だって一番遅くまで残って練習する。数多くある部活の中で、一番長く学校にいたくなくてはならない、そんな部活だったのに。

部活のことで悩んだり、クラスのことで悩んだり、親とのことで悩んだり……。中学生には悩みがいっぱいあります。いつだって悩みを抱えながら、授業を受け、部活に取り組み、それから帰宅します。悩みの種であった友達や部活から離れても、今度は親と意見が合わなくてやっぱり家でも悩んで…。そして結局、悩みが解決しないまま次の日を迎えます。当たり前の何も変わらない日々だけど、毎日どこかが変化しています。克久は入部したてのまだ一年生だったはずが、気が付けば三年生が引退し、新しい一年生が入ってきて先輩と呼ばれています。吹奏楽部という、全国大会を目指すレベルの高い練習の日々を重ねながら、克久は音楽の魅力にどんどん引き込まれていきます。いろんな悩みだって忘れてしまうくらいに。様々な思いを抱えながらも、仲間と音楽で一つになる面白さをこの本から感じてみませんか？

★そういえば、吹奏楽とオーケストラのちがいは？

オーケストラは一番人数の多い弦楽器と中心に、木管楽器・金管楽器・打楽器とあらゆる楽器と一緒に演奏する集まりです。吹奏楽は、管楽器と打楽器が中心の集まりで、そこに弦楽器のコントラバスやハープも加わります。もともと、野外で演奏する軍隊楽が起源なので、外ではあまり大きな音がしないヴァイオリンやヴィオラなどの弦楽器は参加していません。

参考：『オーケストラ・吹奏楽が楽しくわかる楽器の図鑑 5』

佐伯茂樹著 小峰書店 2011

YA! YA! ひろば

12 さい。

[illegible]

A. 12 (92.2%) (n = 4)

11706

3/10/97 T.A. BERT

柳沢図書館へ寄附
ので、これも、とい
うように思います。

[illegible]
$$T_{\frac{1}{2}} = 2.6$$

892-2-0
 A 12-1-15

P.2
 $\sqrt{16} = 4$



...柳沢



保谷駅前



... ひばり



ネ刀と一ありがとらございます!
12さい、言売んでけますね。
これからと一
お原貝います!

みなさん、こんにちはの男
初の「オス」です。小五です。
よろしくおねがいします。
私、オススガなのは、
この「オ」と「ユ」の重複→
事件なんです。
後「歌味わろ」は、
「上橋 菜穂子」さんの
本がオススガです。
みなさん、読んでみて
ください。

ください。

上橋菜穂子さん！私も大好きです。『獣の奏者』は今は外伝も出ていて、とてもおもしろいですよね!! 『守り人』シリーズも今度読んでみます。



コメントは 52
おもしろい
いまだ





最近の4コママンガで
野崎くんはとてもおもしろくて
大好きです！
千代ちゃんががんばれ！！
そんなわたしは堀ちゃん好き！



図書館見学の回

ありがとうございます

こんにちは。
先日は、生活科の学習におけ
る一環がありがてうございました。
お昼時、10年と前にながさの市
立中央図書館を見学して
まいりました。当時はまだ高校生で
将来について悩んでいたから、この
「たいやん」をテーマに描いていた
ことを思い出しました。
お昼時、10年と前、今、かつて、自分の
クラスの時と違えて来るほどで
ない、この場所には昔のものが
残っていました。
50年の歴史を思い、手と手はまた
新しい図書館の歴史に刻み付け
たい。そして、何より「たいやん」は
人々の役に立ち、人々の暮らしに
役に立つことを目指しています。
いろいろな人の役に立ち、人々の暮らしに
役に立つことを目指しています。
ありがとうございます。



2014.10.17 撮影

読者のみなさんへ、この本は、

こういう縁もあるのでね、
私も将来について悩んでいる
ところですが、こうして
先輩の存在を知ることができて、
頑張ろうと思いました。
今後とも、よろしくお願いします。

「ブロード街の12日間」

デボラ・ホプキンソン 著 千葉茂樹 訳 あすなろ書房

「青い恐怖」—コレラがそう呼ばれ、原因がまだ明らかになっていなかった時代。イギリス、ロンドンの下町ブロード街にその恐怖が発生した。次々と病に倒れ、亡くなっていく住人たち。わずかな手がかりを元に、探偵のごとく謎を解く—「医学探偵」ジョン・スノウ博士と、助手の少年イールは調査を始める。彼らは病の発端を突き止め、広がりを抑えることは出来るのだろうか—。

そして、秘密を抱えつつ調査に奔走するイールに、忍び寄る影が…？

実在した人物と、実際にブロード街で起きたコレラ大発生を元にした、フィクション+ノンフィクションのお話。ジョン・スノウ博士は「疫学の父」と呼ばれている人物です。

今も続く、未知の病と人類の長い戦いの歴史—描かれた150年以上前の、彼らの懸命な努力からも垣間見ることが出来ます。

スノウ博士については、こちらの本もどうぞ♪

「医学探偵ジョン・スノウ」サンドラ・ヘンベル 著 杉森裕樹 訳 大神英一 訳 山口勝正 訳 日本評論社

編集後記

共同編集に参加して
早1年。本当に1年は
あ、というまでですね。
拙い文章ですが、1年間
読んで下さり、ありがとう
ございました！
来年もまたお会いできるの
楽しみにしています♪
皆さんに、良い出会いが
ありますように。
りいな

これでも受験生なので
地獄のような日々を送って
います。これから発行される
頃には終わってるのかな…

なんかもう1年たったんですね。
文章も下手で、お二人には
迷惑かけはなれませんが、
1年間楽しかったです！
こんな体験、からなさん
損ですよ!!!
今までありがとうございました！
やな

CATCH共同編集、
初年度からお世話に
なりました!!皆さんに
感謝です…(^o^)/!!
またどこかで会えるかな?
ずとずとCATCHが
続いていますように!♡
そろそろ積ん読をくずしたい
いすみ
今までありがとうございました!!